

もみじ

-広島県山岳・スポーツクライミング連盟会報-



一般社団法人 広島県山岳・スポーツクライミング連盟

〒733-0011 広島市西区横川町2丁目4-17

電話・FAX (082) 296-5597

E-Mail : hgakuren@lime.ocn.ne.jp

URL : <http://hiroshima-gakuren.or.jp>

郵便振替口座 01380-6-37958

題字デザイン 今村みずほ

編集 西部伸也

本号内容

1. 登山教室（9/16～19 劍岳）報告
2. クライミングスクール（9/4 三倉岳）報告
3. 中国高校登山大会県予選（9/10・11 広島学院高校、大茶臼山一帯・ノートルダム清心高校）報告
4. 個人会員ありんこチーム活動（8/6～7 寂地峡＆犬戻し峡、9/22～25 大崩山・阿蘇山）報告
5. 比婆山系、沢登りルート紹介
6. 岳連短信（寄贈御礼、10～11月の行事予定）

1. 登山教室報告

（指導部長 森本 覚）

第6回 9/16(金)～19(月)

登山形態：テント泊山行

山域：剣岳

人数：10名（スタッフ含）

今回は無積雪期の集大成で剣岳に行ってきました。人気の山に行く事に不慣れなメンバーでの山行なのでルートは早月尾根のピストンとしました。早月小屋に2泊する計画でしたが、台風の影響を考慮し1日短縮する行動をとりましたが、皆さん無事に歩けました。普段のトレーニングの成果だと思いました。（森本）

【感想文】

『3000m級登山の実践「剣岳」を終えて』

（登山教室2年 カモト）

遠征先が「剣岳」に決まったのは、昨年秋に取られた登りたい山アンケートでした。私も「剣岳」と書きましたが、難易度的に無理だろうと思っていたので決まった時は驚きました。受講生の希望をくんでいただ

いたスタッフに感謝します。

登頂ルートは早月尾根が選定されました。北アルプス三大急登と聞くので、装備を軽量化して臨みました。計画表の個人装備で「△」は全てカット。行動食は余す事が多いので必要な量プラス1日分程度にし、衣類の着替えは靴下のみとしました。一方こだわりとして残した物は、アクションカメラとその予備電池、自撮り棒、コンパクトデジカメ、ウイスキー200ml、生のキュウリ1本。その結果ザック重量は15.5kg。こだわりの装備も多いのに、共同装備と飲水2.5Lを入れてこの重さは軽くできたと思います。

そして、台風14号が接近する9/16(金)の夜、駅前レンタカーからハイエースで出発したのでした。定員10名のハイエースにフル乗車でしたが、意外に快適移動できました。運転は4名でローテンション。立山インターで高速を降り登山口の馬場島へ走る車窓から、朝焼けに染まるカッコイイ剣岳が見えテンションがあがりました。

登山は馬場島から先発隊と後発隊の2パーティに分かれてスタートしました。先発隊は先行してテント設営する健脚スタッフ2名。その2名が6テンペアツ全てを担ぐ分、後発隊8名は先発隊の個人装備を歩荷します。これは早月小屋のテント場が狭く早い者勝ちなので取られた策でした。

早月尾根はうわさ通り急登の連続。段差が大きい階段状だったり、木の根っこを三点支持で登るような力所が多かったり、歩きにくい登山道でした。

天候は晴れ、樹林帯なので直射日光が当たらないのは助かりましたが風も通りません。蒸し暑くて厳しい

登山道に、皆がだんだん無口になっていきました。それでも、木々の間から見える森林限界を超えた山の景色に感動し、剣岳から続くギザギザ尾根の迫力にテンションがさらにアップしました。

午後になると下山者との離合で時間ロスが多くなりました。スタッフの判断で隊を2班に分け体調の良い4名が先行することで、離合時間のタイムロスを少なくする措置が取られました。

そんな苦しかった登りも終わり、早月小屋のテント場が見えた時はほっとしました。先発隊のおかげで、狭いテント場の一等地に6テントが張られています。小型テントが多い中、6テント2つはひときわ目立っていました。

テント場到着後、まずサブザックに翌日の剣岳登山装備をパッキングします。それから小屋前のテーブルで夕食を取りました。食事は「お湯をかけるだけで食べられる物」という制限があり、テーブルにはアルファ米と、袋がパンパンに膨れたFDおかずが並びます。ほとんどの人がこのパターンでしたが、SLが食べられていた「生オクラ入りラーメン」はうまそうでした。

夕日が沈んだ18時から共同テントの寝床に着きました。初体験の共同テントは6テントに5人、テント内はキュウキュウで狭くザックなどの荷物があるので水平に寝られません。しかも暑くてなかなか寝付けませんでしたが、前夜の徹夜移動もあっていつの間にか寝入ったようです。

2日目は計画より1時間早い2時半に起床しました。計画では早月小屋でもう1泊でしたが、台風14号の強風を避けるため剣岳登頂後、馬場島まで一気に下山する計画に変更されたのです。

6テントの中で朝食を取り出発準備開始。途中で必要になる簡易ハーネスは事前装着、カラビナとスリングはすぐ出せるように身に着け、4時にスタートしました。天候は晴れており月のまわりに大きな光の輪が見えます。これは天気の下り坂の時に見られることが多いとのことでした。

当たり前ですが早月小屋から上部も急登です。前日の疲れもあって足があがらずつらい登りでした。ヘッ

デンのあかりでしばらく登っていると、東の空がオレンジ色に染まり後立山連峰の影と、白馬山荘の明かりが良くわかりました。

高度を上げていくと植生が「はいまつ」に変化、足元も本格的な岩稜帯となり、三点支持を強いられる力所や鎖場も出現してきました。落ちたらまずい場所では大型カラビナを鎖にかけセルフを取って通過しました。

やがて別山尾根ルートと合流、立っていられない程の強風が吹き荒れる中、しばらく尾根を登ると念願の剣岳山頂に到着しました。

山頂からの景色は、東方面はガスで見えませんでしたが、それ以外は良く見えました。スケールの大きな剣沢とその向こうに立山、室堂の奥にクリッキリ見える薬師岳の大きな山容が印象的でした。南方面は水晶岳あたりが限界でしたが、北方面は能登半島と日本海が良く見えます。足元には苦しい登りだった早月尾根も見えて感慨深かい景色でした。

3連休中の山頂は人が多く、ほこらの前は記念撮影の行列ができています。われわれもタイミングを見て岳連旗を持って記念撮影。山頂滞在時間は30分でした。

下山はテント撤収班2名が先行しました。本隊も離合ロスを最小限にすべく2班に分けて早月小屋まで下山する策が取られました。

途中雨がパラツキ、ぬれ始めの岩場が滑り易いと知りました。これは恐怖でしたね。登りと同じように危険力所は鎖にカラビナをかけての通過でした。

早月小屋から馬場島までの下山は、体調の良い5名が共同装備を担いで先行する作戦が取られました。後は下るだけだと、気持ちは山場をこえたつもりでしたが、実はここから先が早月尾根ルートの核心部でした。降りても降りても足場の不安定な下山ルートが永遠に続きます。重いテント泊装備に重心を保つのがつらくて何度もため息がでました。この日の行動時間は15時間で、私の過去最高を更新。馬場島に到着した時は剣岳登頂より嬉しかった、かもです。

期せずして1DAY早月尾根の3/4を歩く事になり、1日で全部を歩く方のすごさが実感できました。帰宅し

てから数日、剣岳に登った満足感に浸りましたが、筋肉痛にもドップリ浸つたのでした。

最後に、今回の山行でもさまざまなトラブルが発生し、台風による天候不良も懸念されました。それらの影響が最小限で済んだのはスタッフの最善の判断の積み重ねと、受講生も何とかそれに対応できたからと感じました。みなさんありがとうございました。

在学期間も残り半年になりましたが、まだ長距離縦走や雪山が残っています。引き続きよろしくお願ひいたします。

（写真提供 森本）



2. クライミングスクール報告

（指導部長 森本 覚）

第5回 9/4(日)

山域：三倉岳 源助崩れ

人数：19名（スタッフ含）

本日はBコース7合目周辺及び中ノ岳檜までを予定していましたが、中ノ岳にはスズメバチの巣があると報告があり、前日の雨もあり、源助崩れに変更しました。ねずみ小僧下部、ラッキーネーブル下部、モアイクラック下部、ヒップクラック下部をトップロープで確保しプロテクションをセットする疑似リードクライミング及びリードビレイを行いました。

（指導部 塩田 徹）

【感想文】

『夢がふくらむクライミングスクール』

(受講生 柏原 宏紀)

昨年よりクライミングスクールにお世話になり2年目を迎えました。昨年は新型コロナウイルス感染症の影響でスクールの中止がありました。今年度は岳連スタッフの皆さまのご尽力によりこれまで継続してスクール練習させて頂ける環境に感謝しております。

今回のスクールは2本のロープを使い、うち1本トップロープで確保をしながら、実際にカムで支点を設置してリードクライミングで登攀したり、リードブレイを学びました。トップロープと違い、墜落距離が大きくなる不安とクラックに合わせたカムのサイズ選び、更には自分で決めたカムがジャミングの妨げにならないように考えたりと難易度が格段に上がることを経験させて頂きました。

まだまだ課題が多く未熟ですが、自身の当面の課題としては足の使い方。次回のクライミングでは足の置き場所をしっかりと決めて勇気を持って乗り込むことを実践したいと思います。

これまでトレーランニング主体だった私ですがクライミングスクール参加をきっかけに憧れだったジャンダルム単独行や北鎌尾根縦走を叶えることが出来ました。更には福山山岳会にもお世話になり私の身の丈以上の剣岳ハツ峰まで連れて頂き、稜線上の絶景に感動し、アルパインクライミングの達成感を感じることが出来ました。クライミング技術を習得することで私の夢がますます広がります！

今年度のクライミングスクールも残り3回となりました。残るスクールではマルチピッチの技術も習得して、来年こそ小槍登頂をかなえてみたいと思います。まだまだそのような力量ではありませんが、クライミングスクールでのご縁で繋がりの出来た仲間の皆さんとともに安全を心掛けて練習に励みたいと思います。今後ともよろしくお願ひいたします。

『クライミング教室に参加して』

(受講生 中岡 節二)

9月4日は、初めてのカムの練習でした。

とはいっても、どのような種類があり、どのような状況で使用するのかは、全く知らない状態での使用練習となりました。携行の方法も知らず、みようみまねでの練習は、頭の整理が追いつかず最初は、自分が何をしているのか全く分からず状態でした。

いろいろ聞いたり、見ていく中で色によって番手が決まっていたり、何種類かで1セットとなっていることを知りました。基本構造、使用時の注意事項等が徐々にわかつてきましたが、いざ取り付けるとなると、どこに取り付けるべきなのか、どの大きさを取り付けるべきなのかは全く分かりません。落下した時の状況を想定し取り付け場所を決めなければならないとは思い、事前に登るルートを確認していても登ることに集中すると取り付け場所を考えられないことが多々ありました。また、取り付け場所は、自分の顔の高さあたりになるため、どうしてもジャミングしたい場所と、カムの設置場所が同じ場所になる傾向があり、登るのに苦労することなどがあり、あっという間に時間が経過する一日でした。

また、カムの取り付け角度やロープの流れる角度により、確実に取り付けたと思っていたカムが、降りる際に見ると外れており、カムの使い方にはかなりの経験が必要だと感じた一日でもありました。

カムの取り付けについて何かテキストのようなものがあれば、紹介していただければと考えます。

(写真提供 塩田)





3. 中国高校登山大会県予選報告

（県高体連登山部事務局 内藤 弘泰）

令和4年度 広島県高等学校登山大会（第62回中国高校登山大会県予選）の結果を報告いたします。

【日程】令和4年9月10日（金）～11日（土）

【場所】広島市西区・広島学院高校・大茶臼山一帯・ノートルダム清心高校

【参加者数】選手11校・126名、役員・監督24名

大会結果は、男子が、① 広島学院 99.7点 ② 修道 98.8点 ③ 基町 96.4点 ④ 安古市 92.1点 ⑤ 廿日市 86.0点 ⑥ 五日市 80.7点 ⑦ 高陽 80.2点 という結果でした。

女子は、① ノートルダム清心 99.1点 ② 県立広島 80.5点 となりました。

上位大会である中国大会には、例年ならば6位以上が出場できるのですが、今年度は感染症対策で、各県男女3チームずつという制約となっています。男子は広島学院・修道・基町、女子はノートルダム清心・県立広島が出場権を獲得しました。また、急なメンバー変更のために女子2部に出場していた五日市高校が、規定により繰り上げで出場することになりました。岡山県の那岐山で行われる中国大会での健闘を祈ります。

1日目は、広島学院高校の講堂で、開会式とペーパー試験を行いました。この大会は、上位大会の県予選と銘打っていますが、講習会の要素も含んでおり、登山技術（読図・天気図・炊事など）の講習が、それぞれの分科会に分かれて行われました。講習内容を準備してくださった先生方には感謝を申し上げます。感染症対策でテント泊は行わないことになっているため、テントを張ってみる体験会を行って、17時頃に解散し、各自帰宅しました。

2日目朝も、広島学院高校へ集合。ここから「広島南アルプス」と呼ばれる山塊を北上します。最初のピークまではタイムレース。早いチームは15分ほどで駆け上ります。その後は、読図定点を確認しつつ、記録をとりながらの登山行動となります。

己斐峠から大茶臼山へ登り、丸山分岐から鉄投げ峠へ降りて、宗箇山の稜線に再度登り直して大迫団地を抜けて、ノートルダム清心高校がゴールというロングコースでした。

暑い中、選手達は元気に歩ききってくれました。大会を通じて、安全な登山を行うための技術・考え方を学んでもらえたのではないかと思います。1年生が来年、立派な先輩として指導できるように成長してもらいたいと願っています。





4. 個人会員ありんこチーム活動報告

（顧問・個人会員 岡谷 良信）

参加者の感想文および写真を掲載します。

『8月山行（8/6～7 寂地峡&犬戻し峡沢登合宿）報告』

（個人会員 高田 正剛）

記録的な早さで梅雨明け、毎日、危険なくらいの暑さが続くなかった、8月のありんこチームの例会が寂地峡及び犬戻し峡で実施されました。

2週間ぐらい雨の降らない日が続いており、当日も良い天気で気持ち良く歩けると確信していたのですが、前日はあいにくの雨。私は、入渓できないかもしれないと思い、沢登りの装備とは別に通常の登山靴も持参、8月6日10時、寂地峡案内所前の駐車場に集合。現地確認の後、入渓が決定され、私の準備した登山靴は無事？無駄に終わりました。

前日の雨のため水量は多めで、歩く時に足を上げすぎると、当該足が流れに持って行かれそうな感じがす

る事もありましたが、技術的に不安がある場所はOアドバイザーと、寂地峡初体験したいと言う事で岳連の方が一日の特別参加をしていただき、両氏がフックス&ビレーをして下さるなど安全対策も万全であり、予定通り 15 時頃には寂地峡キャンプ場に到着する事ができました。

2日目。

前日夜の雷と強い雨で更に水量が増えたと思われる犬戻し峡に入渓し、寂地峡よりもロープが必要となる場所も多く、初日にフォロー頂いた方いないために、一ヶ所でしたが、中間フォローが必要なためにOアドバイザーから私に後続者のビレーを託されました。ムンタヒッチで後続者を確保し、当該者のセルフビレーセット確認後に解索し、ロープをセットし直し、再度結索して次の後続者を確保します。

ムンタヒッチによるビレーは昨年度まで3年間受講した登山教室で何度も講習を受けていましたが、今回初めての実践です。ロープ捌きに少しもたつきましたが、スリップした何人かを無事ビレーする事が出来ました。

ビレーの途中、クライミング経験のある後続者の方から、確保器（彼はルベルソを持っていました）でビレーしたことはあるがムンタヒッチによるビレーはやったことがないので見せて欲しい、当該ビレーについては実施経験があるのか、という趣旨の質問等がありました。

素直に実践は今回が初めてですと答えたのですが、彼の目に不安感が現れたような気がしましたので、『実践は初めてですが、講習は何度も受けています。』と慌てて追加説明をしました。説明をしながら、映画エーリアン2のドロップシップ大気圏突入のシーンで、シミュレーション練習ばかりで実戦経験がほぼない操縦担当の士官が『経験は〇〇回・・・シミュレーションで。実戦での経験は2回・・・今回を入れて』と答えるシーンを思い出し、質問した彼はかなり不安だったろうな、自分はまだ信頼を得るだけの実力も経験もないんだ、そんなことを考えながらビレーをしました。

これまでの登山教室やありんこチーム例会山行ではビレーしてもらうことはあっても、実践でビレーする

ことはありませんでした。これからは、ビレーしてもらいうだけ、ビレーするのは講習会だけ、でなく、実践経験を積み、自立した登山者を目指したいと思います。

参加者の方にはご迷惑を掛けると思いますが、ご理解頂き、協力して頂ければと思います。

アドバイザーさん、ありんこチームの仲間の皆さん、よろしくお願ひいたします。



『ありんこ 9月の九州遠征』

（個人会員 細田 悅朗）

ありんこ 9月の遠征は台風のために急きょ行き先を変更し、九州の大崩山と阿蘇山に行ってきました。

大崩山と聞いて、あまりメディアに出てこない山なので、早速ユーチューブを見てみると“九州最後の秘境の山”の見出しが多く、登りがいのあるいい山を選んでもらったと期待をこめ、意気揚々と宮崎へ出発して行きました。

延岡の町から離合も難しい川沿いの道を進んでいくと、レンタカーの窓越しに大崩山が見えはじめ、時々立ち込める霧のため見え隠れする岩峰の様子は秘境感十分で、翌日の登山意欲が高まっていきました。

大崩山の魅力は、なんといっても大岩壁の眺望で、わく塚尾根にある最初のビューアーポイント“袖ダキ展望所”から見えた“小積ダキ”的大岩壁は迫力十分でした。

この絶景が見えると同時に“わー凄い、ここまで来たかいがあった、大崩山最高”の歓喜の声が皆からあがり大満足のようでした。

さらに山頂方向を見上げると、岩壁の最深部に位置する“わく塚の大岩”もダイナミックに威容を誇って

立っており、この大岩に登って行くことが嬉しくてたまりませんでした。

下りの坊主尾根から見えた景色も迫力満点で、朝から自分達が歩いて登った岩尾根が全て見渡せ、その大きさと人の小ささを比べて見て、改めて自然の雄大を感じることができた場所でした。

大崩山に登って、この山に楽しさを感じたのは、絶景に加え登山路が変化に富んだ道だったことです。

落ちたら流されてしまいそうな川の徒渉をなんとかこなし、梯子やロープも連続して渡り歩き、カラビナのかけ替えをした大岩のトラバース、崩落した場所ではムンター・ヒッチを使うなど、今まで身に着けた技術を少しでも使って踏破できたことが、達成感と共に楽しさに繋がっていました。

翌日はよく知られた阿蘇山の中岳、高岳に登ってきました。

阿蘇山からは祖母山、九重連山など九州を代表する山が数多く見えており、周りを取り巻く外輪山の広さにも圧倒される山です。

特に、高岳から下山する仙酔峡ルートは岩状の尾根を激下りし、前日の大崩山登山で疲れた体には堪えたみたいです。

この地方は放牧が盛んで、赤牛や馬が草を噛んでいる姿はかわいく、大きな目で私たちのほうをみてくれる姿に心が癒されました。

ただ、食欲には勝てず、アルファ米を食べ疲れていた私たちのお腹の中は、馬さしと牛肉で満たされていました。

3泊4日の九州遠征は、長距離運転中の事故や登山中のけがも無く、無事に終わってよかったです。



遠征期間 9月22日（木）～25日（日）

参加者 7名

23日 大崩山（避難小屋 5:40～袖ダキ展望所 9:00～山頂 12:00～避難小屋 17:00）
24日 阿蘇山（案内所 11:00～中岳 12:30～高岳 14:00～案内所 16:30）

5. 比婆山系、沢登りルート紹介

（顧問・個人会員 岡谷 良信）

今年の沢登りのシーズンも終わろうとしています。コロナ拡大の中で思うような活動も出来ない昨今ですが、この熱さの中、涼を求めての沢登りを楽しめましたでしょうか。

今回、紹介させていただきます沢は、皆さんには馴染みの比婆山系の中にある沢です。私を含めて、備北方面の沢登りのルートは中々思いつかないのですが、比婆山系には探せばまだ埋もれている沢も沢山あると思います。今回は尺田川上流の、福田頭に向かって伸びている、上尺田川の紹介です。

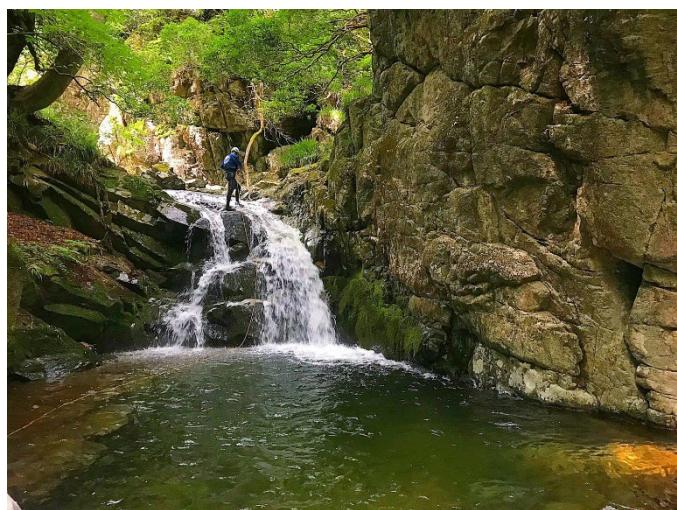
比婆の森、熊野神社の三叉路の別れから 250m位で左折して、天然記念物熊野の大栱ノ木の方面に進み（駐車場有）、栱ノ木に渡る橋から入ります。最初はゴーロ帶と小さな淵を遡行（初心者にはなかなかのコースで楽しめる）、左右に大きな沢ぐるみの木が目につきます。しばらくすると淵の左岸に大きなかずらが、ぞうの鼻のごとく垂れているので、上に上がり、写真を撮るといいですね。

直ぐ先の林道と交わる橋の下の淵を抜けると、F1 の滝が現れ、ここから本来の沢登りのルートになると思います。ロープは不要で右岸を慎重に登り、ほんの少しで F2 本流右手のクラック状の小さな滝口を登ります（一ヶ所ハーケンを打っているが注意して登る）。初心者には若干難儀な所なので、左岸に巻道が有るが、フィックスロープのセットが有れば安心でしょう。

ゴルジュを進むと、F3 の滝壺に入り、この滝が一番のシャワークライミングが楽しめるが、油断をすると滝壺に引き込まれるので注意しましょう。正面の滝の洗礼を受けて、テラスに立つと、右手が本筋の滝で水流はとい状になっていて、中央部のスタンスは水圧で流されるので避けます。水量の少ない奥にスタンスを置き、『よっこらしょい』で登って行きましょう。初心者にはそれなりのサポートが欲しい場所です。

この後は F4 が有りますが何の心配もなく遡行できます。しばらくゴーロ帯を進むと終了点で、左岸に上がると林道に出ます。林道をそのまま下ると、駐車場に着くので安心して下さい。

4 年前に確認して、苔むして初心者にも楽しめる沢と思い、何人かの方には案内致しましたが、喜んで頂きましたので、この機会に皆さんに紹介して、多くの皆さんに楽しんでもらいたいと思います。



（次ページにルート図があります）

6. 岳連短信

1. 寄贈御礼

9/21 三原山の会『筆影』No.511（10月号）

9/22 福山山岳会『会報』10月号

広島山岳会『山嶺』第886号（9月）

広島山稜会『峠通信』第760号（10月）

広島やまびこ会『やまびこ』793

10/4 『中信高校山岳部かわらばん』712

岳連短信（続き）

2. 9~10月の行事予定

10/26 全員協議会

10/28~30 中国高校登山大会（岡山県那岐山）

10/29~31 全日本登山大会（高知県）

11/12 県東部合同登山

11/18~20 西部地区安全登山指導者研修会（島根県）

（9/27~10/2 写真展と 10/2~4 国民体育大会の報告は次号に掲載予定です。）

編集部より

○この会報は、皆さんの提出原稿を編集して発行しています。岳連行事・山の情報・行事参加の感想など気軽にお寄せください。寄稿の場合は所属、役職を記入下さい。編集の都合で一部手直しすることがあります。ご了承ください。

○会員団体で会報発行されたら岳連事務局まで恵送下さい。随時紹介します。

○この会報はメール配信しています。配信ご希望の方は岳連事務局までメールアドレスをお知らせ下さい。

比婆山連峰（上尺田ルート図）

初心者コース 1.6Km

